

遊美

- 1 清水 優先生の作品と
作品についての言葉
- 2 学芸員に聞く
- 3 作家探訪
- 4 国内美術鑑賞旅行 東京
- 5 美に遊ぶ
ギャラリートーク「笑う美術」
- 6 友の会からのお知らせ
あとがき



清水 優 「久慈漁港'15 春の兆し」

2015年／油彩・カンヴァス／162×194cm／第101回光風会展(2015)

人生には出会いがあります。今から45年程前になると思いますが、私の中学の恩師である川井幸久先生(現在二科会員)から2泊3日のスケッチ旅行のお誘いがあり、福島県小名浜港の埠頭に立ち湾内を眺めました。停泊する白い船団が紺碧の海に揺られ、帆柱は青空に凜として向かっていました。その感動の風景との出会いが私の大切な絵の原点になったと思っています。

この絵は小名浜港から南に海岸線を70km程戻った茨城県日立市にある久慈漁港を描いた作品です。4年前には東日本の海岸を襲った大津波と大地震で多くの漁港が被害を受けてしまいましたが、ここは今でも長く使われてきた市場や水産施設が残されています。漁から戻ってほっと安らぐ漁船、穏やかな光を受ける水面に春の兆しを感じながら、いつまでも漁港が平安でありますよう、そして一日も早い復興を願って作品にしました。(水戸市在住・会員)

遊美

- 1 藤井 和亮先生の作品と
作品についての言葉
 - 2 学芸員に聞く
 - 3 作家探訪
 - 4 海外美術鑑賞旅行 スイス
 - 5 美に遊ぶ
 - 6 絵画・工作教室
- 友の会からのお知らせ
あとがき



藤井 和亮 「船溜り」

2009年／油彩・カンヴァス／F100号／第71回一水会展(2009)

旅の思い出

私は、ヨーロッパに魅かれてイタリアなどは3回も歩いてきました。私のねらいは、美しい風景をスケッチすることでした。

第1回目は、平成3年の秋でした。妻と二人で12日間、イギリス、フランス、スイス、イタリアを歩いてきました。屋根が赤一色の街の建物に魅かれ、スケッチブックに描いてきました。おかげで、いつも仲間の集団から離れ、あわてて駆け足で追い

着くということがしばしばでした。

この作品「船溜り」は、イタリアのベネチアでのスケッチをもとに仕上げたものです。青いシートを張ったゴンドラ船の出発前のひと時をとらえました。

スペイン、ドイツ、フランス、オランダ、ベルギーなど、ヨーロッパをひとなめにしたような私の旅はその後何年か続き、忘れることのできない楽しい思い出となりました。
(笠間市在住・会員)